

憲法ってなんだろう？ 9条はなぜ作られたの？ 芸術や言論表現活動に、私たちの暮らしに、それはどう関わるの？
～藝大生と市民がともに学び考えるための「連続講座」です。

芸術と憲法を考える連続講座

2019年

藝大生も一般市民も、どなたでもご参加いただけます。

入場無料

申し込み不要

第15回

よくわかる憲法の話

—9条、沖縄、学費値上げ—

3/19(火) 18:30



憲法って何でしょう？しばしば憲法は「権力を縛るもの」と説明されます。「手足を縛る」とか、「縄で荷物を縛る」とかなら想像できても、権力という概念を縛るとは、一体どういうことでしょうか。自衛隊や軍隊を例に「力の統制」について考えてみると...

未帆先生による、面白くてためになる、目からウロコの憲法講座！沖縄、学費問題、芸術と政治など、今もっともアクチュアルな、私たちに身近な問題を、憲法の視点から読み解いて頂きましょう。

青井 未帆 (あおい みほ)

1973年生まれ。憲法研究者、学習院大学教授。国際基督教大学卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。「憲法と政治」(岩波新書)、「改憲の論点」(共著、集英社新書)など、著書多数。主な研究テーマは、憲法上の権利の司法的救済、憲法9条論。好きな番組:ナショナルジオグラフィックチャンネル。特にオオカミ。 憲法学者の声明を伝える記事(2019.1.22 東京新聞)▶



第18回

クロスインタビュー企画

女・憲法・演劇

この国の「ザ・空気」に私たちは声をあげる

6/12(水) 18:30



永井 愛 (ながい あい)

1951年東京生まれ。劇作家・演出家。二兎社主宰。2017年テレビ局の報道現場を舞台にした『ザ・空気』で第25回読売演劇大賞最優秀演出家賞、同優秀作品賞など受賞。2018年は国会記者会館を舞台にした『ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ』(写真: 中間伸彦撮影)が演劇界の話題をさらった。



望月 衣塑子 (もちづき いそこ)

1975年、東京生まれ。東京新聞社会部記者。森友・加計疑惑などで、菅官房長官に鋭い質問でどこまでも食い下がる徹底した取材姿勢が、多くの国民から共感を呼ぶ。著書『新聞記者』を原作にした映画が、韓国女優シム・ウンギョンと松坂桃李のダブル主演で6月封切り予定。



第16回

歴史の真実を見極めよう

—今の動きを見誤らないために—

4/25(木) 18:30

「終戦」後、教えられてきた国家観・世界観・歴史観すべてが誤りであったと知った「軍国少女」は「もう二度と騙されないぞ」と決意して、以来、政治と社会の動きを見つめ発言し続け、その思想は、その後の研究の根幹ともなった。——日本音楽史研究第一人者が、今、警鐘とともに語りかける。学生とのトークも予定。



小島 美子 (こじま とみこ)

◎ヒダキトモコ

東大文学部国史学科卒、東京藝大楽理科卒。同大講師、国立歴史民俗博物館教授、江戸東京博物館研究員を経て、現在、国立歴史民俗博物館名誉教授。古典芸能から民俗芸能まで幅広く研究し日本伝統音楽の見直しを説く。著書『日本の音楽を考える(音楽之友社)』『日本の音楽の古層(春秋社)』『音楽からみた日本人(NHKライブラリー)』等。



▲東京音楽学校での軍事教練(芸大百年史より)

第19回

ヒロシマを伝える意味

～被爆体験は世界のなにを
変えるのか～

7/24(水) 18:30

核兵器禁止条約は、批准国が50を超え、年内に発効する見込みです。そこに至るまでの70余年。ヒロシマ・ナガサキを体験した人とならない人の間に、架け橋が生れるにあたって、さまざまな市民の知られざる努力がありました。困難をこえて、日本を起点に世界を動かすことができると。そんな元気の出るお話をしたいと思います。

永田 浩三 (ながた こうぞう)

1954年生。元NHKプロデューサー。現在、武蔵大学社会学部教授。著書『ヒロシマを伝える』『ベン・シャーンを追いかけて』『NHKと政治権力』など。編共著『フェイクと憎悪』。表現の不自由展共同代表。言論の不自由展共同代表。市民や学生とともに、ヒバクシャや朝鮮人への差別問題を扱うドキュメンタリー作品や朗読劇に取り組む。被爆2世。



▲峠三吉『原爆詩集』(四國五郎 装丁、1951年)

第17回

「表現の自由」が奪われた時代を生きて

—北海道生活図画事件の歴史とぼくたちの生活と—

5/14(火) 18:30



松本 五郎 (まつもと ごろう)



菱谷 良一 (ひしやう りょういち)

戦前の北海道で、「生活図画」の美術教育を進めた教師やその教え子達が、治安維持法違反容疑で多数検挙された「生活図画事件」。被害者の松本五郎さん(98歳)と菱谷良一さん(97歳)が北海道から上京し、証言する。

東京美術学校(現・藝大)を卒業後、旭川で二人に美術を教えた熊田満佐吾。その旭川で熊田の影響の下、生活図画にふれたのち東京美術学校に進み、学徒出陣後、逮捕された島田美成。事件にまきこまれた藝大ゆかりの人々につき、川嶋均(藝大ドイツ語講師)がレポート。被害者らの人生を切り取った写真作品が、2019年、岩波『世界』の巻頭グラビアページを飾った写真家・高橋健太郎(29歳)。「表現の自由」が再び脅かされる今の日本を生きる若い世代は、歴史の証言をどう受けとめ、行動していくのだろうか。



高橋 健太郎 (たかはし けんたろう)



川嶋 均 (かわしま ひとし)



▲島田美成自画像(東京藝術大学美術館蔵)

主催/東京藝術大学 音楽学部 楽理科 共催/自由と平和のための東京藝術大学有志の会 後援/日本ペンクラブ

会場/東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部5号館1階 109教室 (毎回開始時刻の30分前に開場)

※教室(定員200名)が満席の場合、やむなくご入場いただけない場合もあり得ること、あらかじめご容赦願います(ただし第1回~14回では、そのようなケースは発生してません)。



▲『花ばあば』(ころから刊)より

日本の絵本作家らの呼びかけで2007年にスタートした日・中・韓平和絵本のとりくみ。しかし従軍慰安婦の問題を扱うクオン・ユンドクさんの『花ばあば』だけが、日本では出版社側の事情で暗礁に乗り上げていた。

思いがけない困難に直面しながらも、何度も描き直し、作品を深化させていったユンドクさん。田島征三さんと浜田桂子さんはその思いに寄り添いつつ、「弱い者を犠牲にする戦争の姿を表現したこの絵本は、私たち日本人にこそ必要では」と奔走し、ついに小さな出版社の勇気ある協力を得て、2018年春、出版にこぎつけた。「表現の自由」の最前線で苦悩した、お二人の絵本作家からお話を聞く。



浜田 桂子 (はまだ けいこ)

1947年、埼玉生まれ。田中一光デザイン室に勤務した70年代、田島征三氏が主宰するベトナム反戦野外展に参加。1984年『あやちゃんのうまれたひ』(福音館書店)でデビュー。『へいわって どんなこと?』(日・中・韓平和絵本)など、絵本作品多数。中国、韓国、北朝鮮、メキシコ、キューバなどで、子どもたちと絵本を読みあっている。

田島 征三 (たしま せいぞう)

1940年生まれ、幼少期を高知県で過ごす。1965年処女作『ふるやのもり』、69年東京・日の出村でヤギを飼い畑を耕し創作活動。98年伊豆半島に移住。2009年新潟県十日町市「空間絵本-学校はカラッポにならない」を制作。ハンセン病の収容所があった香川県大島で2013年『青空水族館』制作、現在その隣りに『森の小径』を制作中。



photo by Kenji Tsuzuki

国会の衆参両院で改憲勢力が3分の2以上を占め、本来であれば憲法に縛られるべき存在の政権が、改憲に向かい前のめりに進み始めている今、国民投票が発議される可能性が、いよいよ現実味を帯びています。

そこで藝大有志の会ではこのたび《芸術と憲法を考える連続講座》をスタートし、地道な学習会を重ねていく運びとなりました。ちょっと大変かもですが、本気モードの月1回ペースで、多彩なアーティストや言論人、第一線の研究者などにご登壇いただく計画です。

2017年12月1日

これまでの講座ラインナップ

●2017年

- 第1回 12/18(月)《どうなるの?表現の自由と憲法》田崎基(神奈川新聞記者)、中島京子(作家)

●2018年

- 第2回 1/25(木)《日本国憲法は希望—芸術家も法律家もいっしょに考えよう》白神優理子(弁護士)
- 第3回 2/15(木)《美術館と表現の自由—戦後・現代美術からの問い》武居利史(府中市美術館学芸員)、成相肇(東京ステーションギャラリー学芸員)
- 第4回 3/19(月)《戦争と地続きの国に暮らして~世界を駆ける演奏家が語る戦争と平和~》中村功(打楽器奏者)ほか
- 第5回 4/25(水)《安倍改憲と表現の自由》山田健太(専修大学教授)
- 第6回 5/19(土)《知ってますか? 作文・美術教育が罪とされた時代》佐竹直子(北海道新聞記者)
- 第7回 6/22(金)《へいわってすてきだね—沖縄のゆうき君とぼくの絵本作り》長谷川義史(絵本作家)
- 第8回 7月24日(火)《「ナチスの手口」と芸術》石田勇治(東京大学大学院教授)

- 第9回 8/20(月)《イメージする。表現する。行動する。—核兵器のない世界へ—》川崎哲(ピースボート共同代表、ICAN国際運営委員)、岡村幸宣(原爆の図 丸木美術館学芸員)
 - 第10回 10/29(月)《原発なき地球へ 戦争なき世界へ—出て、見えた日本 来て、知った日本》金子飛鳥(ヴァイオリニスト)、ナターシャ・グジー(歌手、バンドゥーラ奏者)
 - 第11回 11/19(月)《生誕100年 ちひろの絵本と憲法のこころ》松本猛(絵本評論家)、岡田愛(音楽修士2年)、善養寺彩代(ソルフェージュ修士1年)、大塚航二郎(役者、無名塾30期生)
 - 第12回 12/6(木)《山と語を愛した大学生はなぜ逮捕され命を奪われねばならなかったのか?》山野井孝有(元毎日新聞印刷部長)ほか、映画上映『レーン・宮沢事件 もうひとつの12月8日』
- 2019年
- 第13回 1/11(金)《憲法を活かす世界の人々~社会変革の先頭に立つ芸術》伊藤千尋(国際問題ジャーナリスト)
 - 第14回 2/16(土)《表現の自由をもとめて~昭和俳句弾圧事件と九条俳句訴訟~》マブソン青眼(俳人、比較文学者)、九条俳句作者(氏名非公表)、佐藤一子(東京大学名誉教授、「九条俳句」市民応援団世話人)

＜カンパご支援のお願い＞

当会の活動とこの連続講座は、皆さまのカンパにより支えられています。ご芳志を以下口座までどうぞよろしくお願いたします。

ゆうちょ銀行振替口座 00130-1-514131
 口座名称：自由と平和のための東京藝術大学有志の会
 ※他行から振り込む場合/店番：〇一九(ゼロイチキュー)店
 預金種目：当座、口座番号：0514131

自由と平和のための東京藝術大学有志の会
 HP <https://www.peace-geidai.com>
 ✉ kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)



JR 上野駅(公園口)、東京メトロ千代田線根津駅(1番出口)より徒歩10分
 京成上野駅(正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅(7番出口)より徒歩15分

藝大有志の会・活動日誌2018

- ◆写真左(チラシ・オモテ面背景)/学生メンバーらが、憲法講座準備の一環で、埼玉県にある丸木美術館を訪問。「原爆の図」を見たあと、近くを流れる都幾川で、画家・丸木夫妻が愛した風景を全身で感じながら川遊び(8月4日)。
- ◆写真右の左/戦争法強行から3年となる9月19日行われた銀座パレードに、藝大有志の職をもち参加。国会前や代々木公園で、9条改憲NO、辺野古新基地建設NO、原発廃止を求める集会でも声をあげた。
- ◆写真右の右/北海道生活圏画事件の聞き取り調査で、被害者・菱谷良一さん(旭川・写真)、松本五郎さん(音更町)を訪問(3月~12月)。



*このチラシに記載の情報は、2019.3.1現在のものです。最新の情報は会のHPや、FBの《芸術と憲法を考える連続講座》ページでご確認下さい!